

# 守る会NEWSLETTER

[URL:http://homepage3.nifty.com/save-teiji/](http://homepage3.nifty.com/save-teiji/)

都立定時制高校を守る会・連絡会

連絡会事務局発行

## もう少し対応策ないんですか？

### 8月25日、都への要請行動を行いました！

回答その①「枠は確保した」～えっ、どこに枠があるんですか？

その②「計画は間違っていなかった」～こんなにパンクしているのに！？

その③「(300人不合格の事態は) 予想外の突発的なもの」

～私達は何年も前から指摘して来ましたが・・・

8月25日、守る会として、今年の「追加募集」に関連し、「改革推進計画」の総括と今後の対応を求める要請を行いました。以下にその概要を記します。

森代表：新配置計画以降、定時制が半減となった。入りたい生徒が入れない状況になっている。

要請骨子5つに関して、お答えいただきたい。

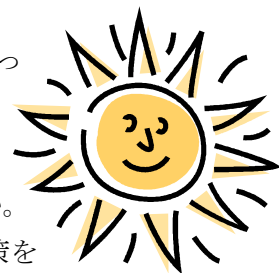
- (1) 今回の事態の原因と責任を明らかにするとともに、都立高校の新設・募集停止校の募集再開などを含む、中・長期的展望に立った就学計画を早急に策定し、都民の前に明らかにしてください。その際、学校現場の実情を無視するような一方的なやり方を繰り返さず、在校生や保護者、現場教職員等の声を十分反映させながらすすめてください。
- (2) 今回の「追加募集」で大量不合格者が救済されたと考えているのかどうかを含め「追加募集」の内容ややり方に関してどう総括しているのか明らかにして下さい。
- (3) 来年度入試に関しては今回のような急場しのぎではなく、夜間定時制等の閉課程校の募集再開（新規開校）を軸とした定時制枠拡大を行ってください。
- (4) 今まで確認されてきた定時制の「学級増基準」「募集停止基準」に関しては、再度確認す

るとともに、改悪を行わないことを言明してください。

(5) 一方的に「追加募集」を押しつけられた10校に関しては、在校生や保護者、現場教職員等の要望を最大限に受けとめながら、教職員定数を増やすなど教育条件の整備をはかってください。

■ (都側) : 内容を読ませていただいて、答えるべき部署がちよっと違う感じがするが、一応お答えする。(1) について～高校授業料の無償化、リーマンショックなどいろいろある中で都立高校に対する期待が高まったのではないか。今後中学の卒業生が増えていくので、中長期の計画を作っていく。来年終了する都立高校改革の成果を検証しながら作っていきたい。(2) ～学校現場に混乱があったのは認識している。ただ、行き場のない生徒を救済しないといけないうわけで、そこはご理解を。(3) ～都民のニーズをふまえて枠は用意していると思っている。募集枠の拡大は考えていない。(4) ～学級の増減基準を変更するつもりはない。来年も30人募集で考えている。(5) ～10校については、必要な教職員定数を配置しているし、予算も出していると認識している。

□ (守る会側) : 昨年度、300人以上が定時制の2次募集で不合格になった。その後どういう進路を選んだのかわからない。その生徒たちは今どうしているのか心が痛む。来年以降も生徒が増えるのに、また同じことが繰り返されるのではないか？なのに、都教委側の十分な反省が見えない。改革推進計画の矛盾や誤りについての認識が弱すぎる。踏み込んだ改善策をぜひ策定して欲しい。



やっぱりこうなっちゃったじゃないの！

□ : 受け入れの枠を確保しているというのは間違いだ。例えば、都内から大島高校には通えない。また、品川にある大崎定でも小平や清瀬から受けている。でも通いきれない。都教委は「枠はある」と言うが、それは幻の枠だ。また、10校追加募集したが多摩は五商1校だけ。多摩地域では二次で約150名あふれたのに五商には25人しか受験していない。約120人が受験できなかったか、どこかにいったことになる。今回の事態は、枠を確保したという認識自体が間違えていたということだ。今回、東京の高校進学率は90%を切った。96%という計画進学率を大きく割っている。本格的な再検討をしないと同じ事態を繰り返す。行き場がない生徒を救済するのは良いとしても、今回のやり方はひどい。また、追加募集10校に教職員を配置したとのことだが、講師対応であり、専任は配置されていない。

□ : 計画は来年で終わりになるので検証するとのことだが、いつぐらいに検証した内容を都民に示してくれるのか。その時期を教えて欲しい。

□ : 来年度の入試では、入れない生徒が出ないと思っているのか？授業料の無償化は初めてだが、来年だって続くはず。とにかくみんなが救済されなければいけない。それが大丈夫だという理由を聞かせてください。救済されるという根拠をぜひ。私たちは、さんざん、「このままで

は大変だ。何とか手を打って欲しい」と訴えてきた。やっぱりそうなっちゃったじゃないの！都教委の予測はずれたでしょ！！大丈夫という根拠を教えて！

## 枠がないから困っている！

□：4人子どもがいる。冒頭に、担当部署が違うと言われてびっくり。行き場のない生徒が出ないようにしたいといわれても、信じられない。枠がある??枠がないから困っているんですよ！都民のニーズと何回も言っていたが、都民のニーズってなに？子どもたちを真ん中に置いた行政であってほしいのに、お金が先に来ている。こんな回答初めてです。びっくり！清瀬東高校はみんなが作ったのにそれをつぶされて、東久留米総合高校ができた。うちの4番目の子が行こうと思っていた久留米定時制がなくなった。武蔵定もない。は泣く泣く全日制を受けた。でも全日は働きながら学ぶ環境にない。だから退学せざるをえなかった。その後東久留米定を受けたのに落ちてしまった。改めて受験をしたいが、落ちることへの不安がある。都心は無理だし。選択肢がない。どこに枠があるの??回答に怒りを感じる。



□：「不登校の親の会」だが、チャレンジに行きたいのだが、入れない。今まではチャレンジを落ちてでも定時制があった。でも今年は定時制2次で入れない。多摩地区の定時制そのものが少ない。また、定時に行っても「昼間に行きたかった」という生徒が多く、定着せず、定時でがんばるという気持ちにならないという話もある。枠は

ありますよ、というけど、現実とは全然違っている。近くに学校があるような形にしてほしい！チャレンジもダメで、定時制にも行けないとなるとどうすればいいのか？

■：97年から高校改革計画ができた。生徒が減り、生徒のニーズも変わって来る中で、画一的な対応ができなくなった。それを受けて、学校の数を減らしながら多様な学校を作ってきた。まちがってない。都民の意識調査でもその路線は支持されている。定時制のニーズが減っている。働きながら学ぶ生徒が減っているからだ。追加募集が拙速だったと言われるが、予想外の突発的なものだった。混乱があったことは認める。来年度は一時的に生徒が減る。今年のような事態を避けるために私学側とも話を詰めている。検証のスケジュールも今後詰めていく。枠についてだが、一次で見ると定時制は0.5倍だ(だから枠は足りている?)。不登校について、チャレンジの高倍率は何とかしたい。検討する。

□：一次で0.5倍と言うけど、学校ごとに入試があるのだから、倍率がある学校では落ちる。一次募集でしか見ないのか？

■：一次募集は第一希望だから問題にしている。

## 都教委の計画が破綻したということ！

□：認識が間違っている。都立希望者を全部吸収できてない。全は1・4倍だ。だから必ず落ちる生徒がいる。3月に文科省が、定時制の受験機会増やすよう都道府県に通達を出したのに、都教委は「2次で落ちても、3次、4次があり進学できない生徒は出ない」と言っていた。3月下旬の日経新聞に出ていた。3次をやった定時制は6校しかない。どこに枠があるのか？就学計画は失敗したと認めるべき。来年中学卒業生が一時的に減っても、再来年からまた増えていく。絶対破綻する。

■：高校改革からは少々ずれている。

□：以前は高校過剰時代とか聞かされたが、結局生徒が減る予想が間違っただけですね？4000人減の予想が間違っていた。全もあふれることはわかっていた。せめて5年前ぐらいから修正してほしかった。昨年度の計画進学率は96%なのに実質は89%しかなかった。達成率最低だ。92%予想で実質89%、はあったが、今回の達成率の低さはひどすぎる。計画の修正をすべきだった。「新任」のあなたを責めるつもりはないが。

■：計画を作るには私立側とも話さなくてはならない。こういう事態は一定分かっていたので増学級で対応した。

□：はみ出るのが多くなるのはわかっていたはず。定時制が破綻する前に絆創膏ぐらい付けてね。少しは働いてね、都教委も！

□：去年も要望出した。その内容は引き継がれてるのか？ 都教委は一貫して「枠はある」と言い続けてきた。しかし近年落ちる生徒がどんどん増えてきた。枠があるなど言ってる場合か。

□：定時制の役割終わったと言っていたが、今はまた不登校・引きこもりが社会事象。あの時とは違う定時制の役割が出ている。役目が終わったとは絶対言って欲しくない。定時制の役割を再認識すべき。チャレンジは素敵だけど、数が少なくて、落ちてしまう。対応しているというのなら300も落ちないはず。

□（森）：今フリースクールを運営している。ある生徒は都立しか受けられない。父はアル中。母はトリプルワーク。チャレンジは倍率が高い。再度出発してほしいと思いながら、それに答えられない。都立でアルバイトしないと行けない人が増えている。働きながら学ぶことによって安定してきた実態がある。都民は一人一人生活がかかっている。

□：定時制高校の役割について一言。定時制は働きながら学ぶ学校としてはじまったというのは正確ではない。様々な理由で全日制に行けない子たちに高校教育の機会を保障するということが始まった。当時は経済的な理由が大きかったから働きながら学ぶのが一般的だった。全日制高校に通いきれないいろいろな社会的弱者のための学校が定時制。働きながら学ぶだけが定時制の役割ではない。しっかり認識すべき。

■：重いお話をうかがった。今後、検討していきたい。